

4.2.3 災害タイプ分類 MAP の作成

大規模地震による山地災害の発生形態は、主に地質によって大別されることが明らかとなった。そのため、ここでは全国のどの地域にどのような山地災害が発生する可能性があるかについて地質区分を基に「災害タイプ分類 MAP」として整理した。このマップは、先に示した事前対策を検討する上でも重要な資料となる。

(1) 地質区分図の作成

全国を網羅する地質図として、1/20 万シームレス地質図 V2（産総研地質調査総合センター、データ更新日:2019 年 3 月 22 日、<https://gbank.gsj.jp/seamless/>）を用いて、図 4.4 に示す地質区分図を作成した。なお、火山灰（テフラ）については、「新編火山灰アトラス、町田洋・新井房夫、東京大学出版会、2003」を用い、同書に示された火山灰のうち、概ね 10 万年前以降のテフラで、50cm 以上の等厚線を有する 80 のテフラ（巻末資料）を対象とした。

地質区分は、表 4.2 に示す 9 区分とした。なお、全国の地質区分としては付加体や変成岩類、花崗岩類以外の火山岩類及び深成岩類等があるが、本業務で収集した地震での事例がなかったことから今回の対象から除外した。

表 4.2 災害タイプ分類 MAP の地質区分

年代	区分	分布図の地質区分
現在～260万年前	堆積岩	第四紀堆積岩
260万～2300万年前		新第三紀堆積岩
2300万～6600万年前		古第三紀堆積岩
6600万年以前		先第三紀堆積岩
現在～260万年前	火山岩	第四紀火山岩類
260万～2300万年前		新第三紀火山岩類
2300万～6600万年前		古第三紀火山岩類
—		花崗岩類
現在～10万年前	火山灰	テフラ

※地質区分図においては、山地災害が発生しにくい平野部を除外し丘陵地を対象とするため、標高 50m 以下かつ傾斜 10° 以下の斜面を抽出し除外した。抽出に用いたメッシュサイズは 200m とした。

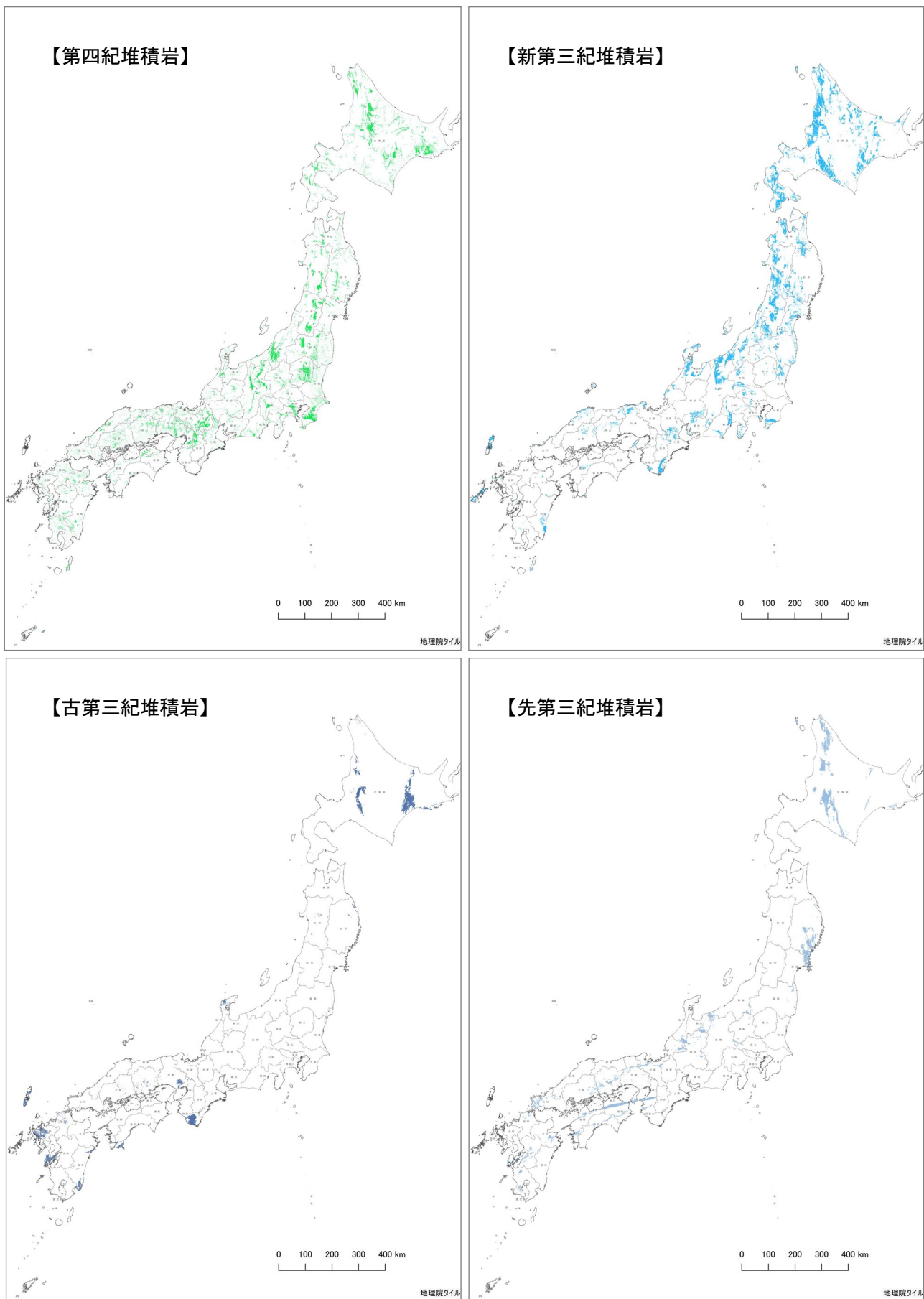


図 4.4 各地質区分図 (1)

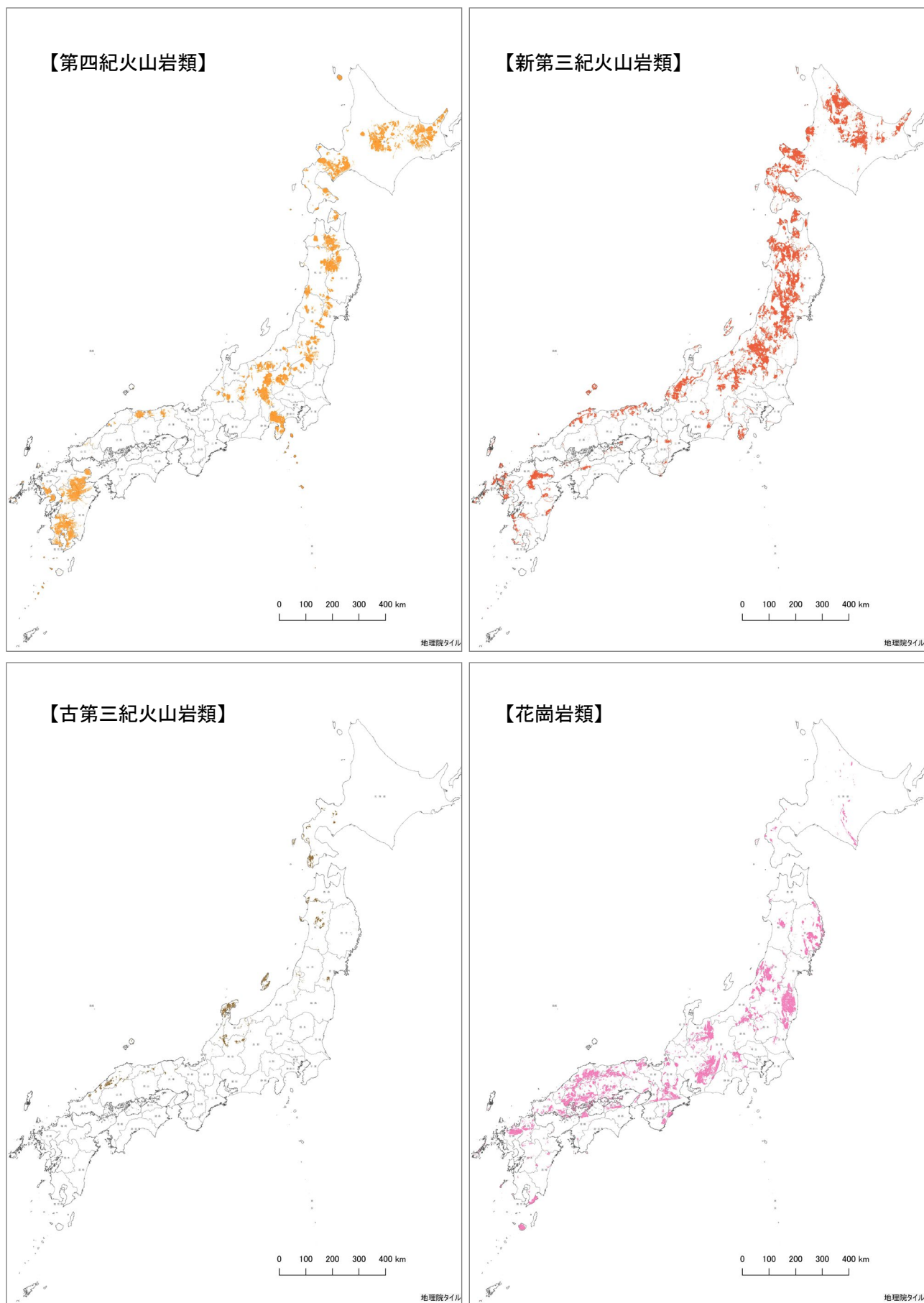


図 4.5 各地質区分図 (2)

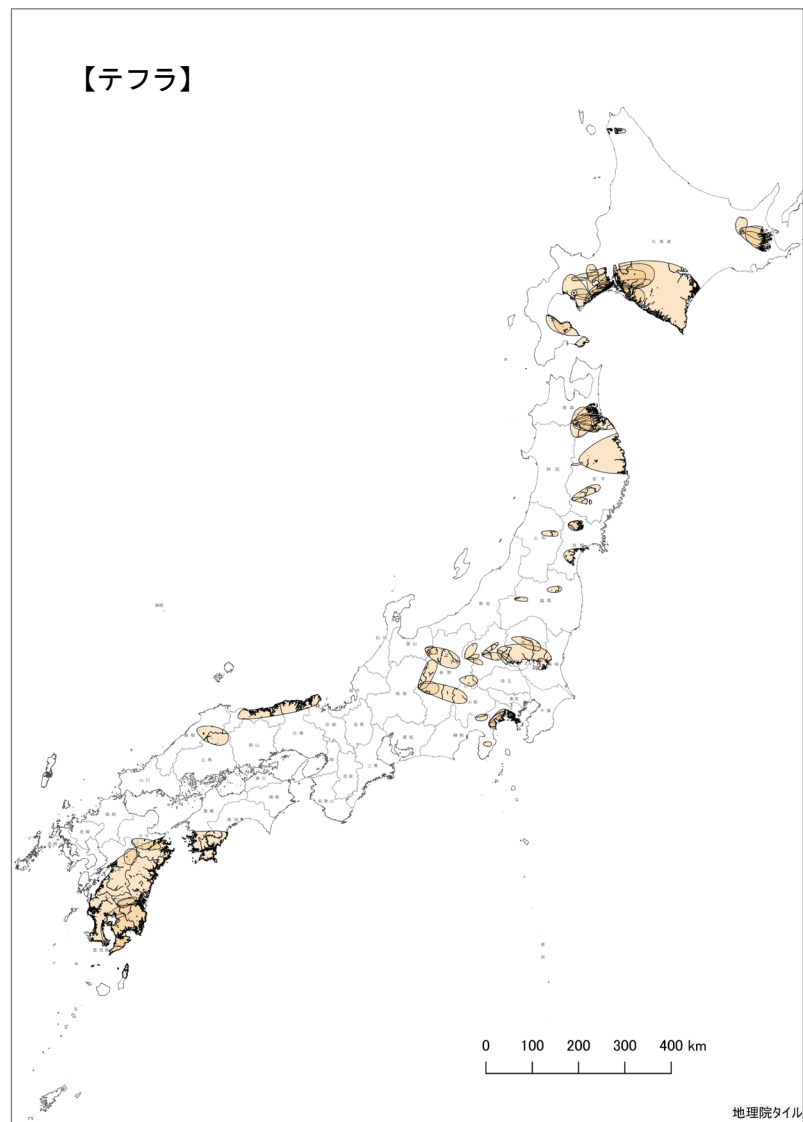


図 4.6 各地質区分図 (3)